大人の教科書

また会いたいと
思われる人になる

日高利美

クロスメディア・パブリッシング

はじめに　本当の大人とは、目の前の人を大切にできる人

幼いころ、誰もが聞かれる質問があります。

「大人になったら何になりたい？」

私は10歳の時から銀座のママになりたくて、18歳の誕生日から夜の銀座で働き始めました。

23歳の時に雇われママ、26歳の時に自分でお店を出しオーナーママになりました。その時、幼いころからの夢を叶えましたが、夢を叶えたこと＝大人になったということではありません。

10代の頃、私には尊敬できる大人がいなくて、大人になんかなりたくないとずっと思って過ごしていました。ですが、尊敬できる大人をずっと求め探していました。

何年探しても自分の理想の大人に出会えることがなく諦めかけた時、ハッと気がついたのです。

「そうか、私が探している理想の大人は『私がなりたい大人』で、誰もがなりたいと思う大人像ではなかったんだ」ということに。

そこで私は『私が10代の時に会いたかった理想の大人に、自分がなろう』と心に誓います。それから、大人とは何かを考え始めたのです。

「大人とは？」の答えは人それぞれだと思いますが、子どもと大人の違いについて考えてみると答えを見つけ出しやすいかもしれません。

年齢ばかりが高くて幼稚な人もいますし、「本当に大人だなぁ」と思うしっかりした子どもと出会うこともあります。

私が考える「大人」をひとつ定義づけるとしたら、『目の前にいる人を大切にできる人』のことです。

私は、人は誰かに必要とされていたい生き物なのではないかと思っています。

誰かの役に立てたり、誰かに大事に思われている時こそ、生きる喜びや生き甲斐を感じ、前向きに生きていくことができます。そのためには、身近にいる人を大切にし、大事な存在だと伝えることが一番です。

成功した時の喜びは、分かち合えれば倍に、悲しみは半分に。そうして人を大事にして、助け合って生きていける人こそ、「また会いたい」と思われ、ご縁を繋いでいけるのです。

自分の人生の責任を持つ覚悟があり、目の前にいる人を大切にする。
そんな『大人』に、なれているでしょうか。
「大人として私だからこそできることは何だろう?」
そのことを考えていただけるきっかけになれば幸いです。

また会いたいと
思われる人になる
大人の教科書

目次

はじめに　本当の大人とは、目の前の人を大切にできる人　2
プロローグ　人を大切にできる人は、恩送りをしている　11

第1章　ご挨拶について
初対面で緊張しない方法　18
別れ際の美しい人になる　21
名刺は相手の分身と考える　24

第2章　身だしなみについて
同じメイクを続けないこと　32
人の印象は髪で決まる　35
爪は清潔感を第一に　37
歯について　41
服を選ぶ基準　45
持ち物のこと　50
笑顔になるだけで幸せが近づいてくる　58

第3章　マナーについて
会食のマナー　66
食べ物を残さないこと　71
席次はきちんと守ること　78
贈り物で心を伝え合う方法　87
ご連絡のマナー　92
人前でしてはいけないこと　101

第4章　人と接する心構えについて
名前を覚える方法　112
いつでも敬語を使うこと　116
相手に興味を持っていると表現すること　130
相手の話を聞く姿勢　138
出会えたことに感謝する　149

第5章　働くことについて

楽しく働くこと　154
働きながら、人として成長すること　156
働かせていただいているという気持ちを忘れない　159
謝る勇気を持つこと　162
お金の使い方について　164
時間の使い方について　169
手帳で生活を管理する　172

第6章　育てていただける人になるために

否定的な言葉は口にしないこと　178
心にもないことは口に出さない　180
自分自身をよく見せようとしないこと　183
知ったかぶりをしないこと　188
褒め言葉は受け入れること　192
人を疑わないこと　196

人の真似もしてみること　201
「ありがとう」「ごめんなさい」と口に出して言う　208
自分の中の思い込みを手放すこと　213

おわりに　そばにいてくれる人が、なによりの宝　221